

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	すだちプラス		
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年2月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年2月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【個別理解に基づいた支援の実践】 日々の関わりやアセスメントを通して子どもの特性を把握し、それぞれに応じた支援を実施している。保護者評価においても、支援内容や理解の面で高い評価を得ている。	【継続的な情報共有の実施】 送迎時の会話や連絡帳アプリを活用し、日々の様子を写真付きで具体的に伝えることで、保護者との情報共有を継続的に行っている。	【情報発信の強化】 支援内容や事業所の取組について、より分かりやすく伝わるよう、情報発信の方法や親子参観などの機会の充実を図る。
2	【安心して過ごせる環境と安全意識】 活動スペースや環境整備に配慮し、子どもが安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいる。また、安全面への意識も高く、保護者からも安心感に関する評価が見られる。	【安全意識の共有と対応】 事故防止や安全確保のため、職員間で情報共有を行いながら支援を行い、災害時対応についても確認を行っている。	【安全対策の見える化】 保護者に対しても安全対策や取組内容の周知を行い、より安心して利用できる体制づくりを進めていく。 災害時の避難先は保護者の避難先も含め共有していきたい。
3	【活動プログラムの工夫と参加しやすさ】 運動や制作活動など、多様なプログラムを取り入れ、子どもが楽しみながら参加できる環境を整えている。繰り返し取り組むことで安心して活動に参加できている。	【主体的参加を促す活動構成】 個別活動と集団活動を組み合わせながら、子どもが主体的に参加できるよう活動内容を工夫している。	【地域活動の幅と地域連携の拡大】 地域との関わりや交流の機会を取り入れ、活動の幅を広げていくことを検討する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【地域資源を活かした交流の発展】 併設する学童や他事業所との交流イベントを実施しており、子ども同士の関わりや経験の幅を広げる機会が確保されている。今後はさらに地域とのつながりを広げていく余地がある。	【交流機会の拡大】 既存の交流は行えているものの、地域全体との関わりや活動の広がりについては、今後さらに充実させていく段階にある。	【交流の拡充と発信強化】 併設学童や他事業所との連携を継続しながら、地域との関わりを幅を広げるとともに、活動内容を分かりやすく発信していく。
2	【家族支援・交流機会のさらなる充実】 保護者からは家族交流イベントを楽しみにしている声が多く、イベントを通して事業所の取り組みや支援内容への理解が深まっていることがうかがえる。今年度は開催が難しかったこともあり、開催を望む声や残念に感じる意見も聞かれ、交流会への期待の高さを感じた。	【交流機会の重要性】 イベントが保護者にとって支援内容を知る大切な機会となっていることがわかったので、その機会をさらに充実させていく必要がある。	【交流と情報共有の機会拡充】 家族交流イベントや説明の機会を計画的に設け、保護者が安心して参加できる形で、事業所の取り組みや支援内容をより分かりやすく伝えていく。家族交流イベントに都合により参加できない保護者もいるので年に数回開催する機会を設けるなど、工夫していく必要がある。
3	【安全対策の周知の充実】 事業所内では安全対策や防災に関する取り組みを行っており、安心して利用できる体制は整っている。今後はその内容を保護者へさらに分かりやすく伝えていく余地がある。	【取り組みの共有機会の不足】 事業所内での実施内容に比べ、保護者へ具体的に伝える機会が限られていることが要因と考えられる。	【安心につながる情報共有の強化】 防災訓練や安全対策の内容について、分かりやすく発信し、保護者がより安心して過ごせる環境づくりにつなげていく。 家族交流イベントで災害マニュアルの共有や避難訓練を企画するなど、保護者に情報発信していく。